（第三種郵便物認可）　中國新聞

広島サミットイヤー幕開け

車両ラッピングでおもてなし

路面電車やバス 中高生デザイン

来月から運行

広島県内13校の中高生たちが、広島サミットをPRする路面電車や路線バスのラッピングデザインを手掛ける。歓迎機運を高めようと、官民でつくる広島サミット県民会議が企画し、2月から県内で運行。世界の注目を集める会議で、広島の若者たちが広島の魅力発信へ一役買う。

路面電車は6校が広島―宮島間などを走る1台（5両編成）の側面を一つずつ、バスは7校が市内線や広島―竹原線など7社の各1台を担当。観光や平和をテーマに、それぞれ制作を進めている。

広島みらい創生高（中区）は路面電車の側面をデザインする。文芸部2年の宮越純々奈さん(17)と、3年の天野カムイさん(18)が、スポーツが盛んな広島の街の魅力を伝えるイラストを考案。サッカーボールやバスケットボールを描き、スポーツ選手を夢見る広島の子どもが、成長して夢をかなえるイメージを表現する。

宮越さんは「絵を描くのが大好き。サミットのような世界的な行事に関われるのはめったにないチャンス」。天野さんも「通学で使う電車に自分のイラストが載るなんてうれしい。海外から広島に来る人たちに見てもらいたい」と声を弾ませる。

県民会議は、サミットの開催PRと同時に、若い世代に関心を高めてもらおうと、各市町教委などを通じてデザイン制作に取り組む学校を募集。抽選で13校を決めた。2月に披露後、5月下旬まで約3カ月運行する予定だ。

ほかに高校生たちの「ジュニア会議」開催やカウントダウンボード制作も企画。若者が国際感覚やチャレンジ精神を育む機会を増やし、サミットの成果を次代につなぐ取り組みに力を入れる。（久保友美恵）

路面電車のラッピングデザインを考える宮越さん(左)と天野さん（撮影・高橋洋史）